召喚師

S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
召喚師

【Ｎコード】
Ｎ１９５４Ｙ

【作者名】
Ｓ

【あらすじ】
惑星エールは創造神ニスティによって命に満ち溢れいた。ある時破壊神カルマによって滅ぼされ欠けたが、大戦の結果カルマは消滅し、ニスティは様々な生命・力を残したままいつさめるかも分からない、深い眠りについた。その後２０００年以上の時が過ぎ、ニスティが残した力によって独自に発展していった。再生暦２０５０年そんな中、ある海岸で倒れていた男の子が見つかった。

メイン人物紹介（前書き）

初投稿です。つたない文章ですが読んで貰えれば幸いです。Ｒ１５、残酷な描写ありにしていますが、展開をまだ考えている途中なので書くかは分かりません。不定期に更新していく予定ですのでよろしくお願いします。

メイン人物紹介

人物紹介

レイン＝スレイブ　１６歳

５歳の時、レイン海岸で倒れているところをウィン国王女のカナリアとルーナに助けられる。目覚めたとき記憶がまったく無く、王家の剣と言われるスレイブ家の養子となる。

レインの召喚獣ー精霊王”フィル”ー

魔力を糧に様々な力を人に貸す精霊達の王。七色の髪を持つ美しい女性の姿をしている。

カナリア＝コーラル　１７歳

ウィン国第一王女。父親譲りの真紅の髪を持ち、男勝りな勝ち気な性格。闘仙術を学んでいる為動きやすさを重視して髪をショートカットにしている。

カナリアの召喚獣ー赤龍”グレン”ー

灼熱の炎を吐く中級のドラゴン。老練した性格で、召喚者であるカナリアのことを優しく見守っている。

ルーナ＝コーラル　１６歳

ウィン国第二王女。母親譲りの美しい銀髪を背中までストレートに伸ばしている。普段は穏やかな性格ではあるがたまに頑固になることがある。頭脳明晰であり読書が好きなため知識が豊富。

ルーナの召喚獣ー天龍”ウィズ”ー

風を操る中級のドラゴン。常に冷静沈着でルーナのよき相談相手。

ユリ＝エルフィン　１７歳

レイン・カナリア・ルーナの幼なじみのエルフ。腰まで伸ばしたウェーブがかかった金髪が特徴で、若干天然なところがあり３人のお姉さん役をしているためか、３人に対して抱きつき癖がある。

ユリの召喚獣ー魔狼”フェンリル”ー

絶対零度の吹雪を吐く狼。無口だが意思表示はしっかりしており、

ユリからリルちゃんと呼ばれる度、苦笑いをしている。

プロローグ1

ーレイン海岸ー

カナリアとルーナは兄のカイル＝ウィン＝コーラルと共に王家のプライベートビーチであるレイン海岸に来ていた。

両親が公務で忙しい為、今年１５歳になる兄に連れてきて貰ったのだった。

一通り遊んで疲れたため、カイルとカナリアが休んでいると散歩しに行ったルーナが慌てて走ってきた。

「どうした」

カイルが訊ねると、

「ひ、人が倒れているんです」

ルーナの案内で急いで行くと、黒髪の男の子が倒れていた。

ーコーラル城ー

「ここは・・・」

僕は気がつくと広い部屋のベットで横になっていた。

「気がついた？」

「あ、うん」

「よかったです」

頭を動かして隣を見ると2人の女の子が心配そうにみていた。

「此処はコーラル城の客室です。あなたは海岸で倒れていたんですよ。」

「王家のプライベートビーチであるレイン海岸でね」

「えっ、じゃあ君達は」
「はい、私はウィン国第二王女ルーナ＝コーラルです」
「私はカナリア＝コーラル第一王女よ。あなたは？何であんなところに倒れていたの？」
銀髪の子がルーナ、紅髪の子がカナリアという名前らしい。
カナリアの問いに答えるべく考えてみる・・・
「分からない・・・」
「「は？（え？）。」」
「なぜ倒れていたのか、自分の名前すら出てこないんだ。」

プロローグ1（後書き）

次の話でユリが出てきます。

プロローグ2

ーコーラル城・謁見の間ー

３人は侍女に連れられ謁見の間にやってきた。

そこには国王のゲイル＝ウィン＝コーラルと妻のルナティア、カイルを中心に、右側に王家の剣と言われるスレイブ家の当主カタール＝スレイブと前当主夫妻ウルスとサクラ、左側に王家の盾と言われるアイギス家の当主イージス＝アイギス、王家の知と言われるエルフィン家当主リッカ＝エルフィンと娘のユリがいた。

「それではなにも覚えていないのだな？」

ゲイルに問われ「はい」と答えた。

「まずは名前が無くては不便だな…レインでどうだろう？」

僕は頷いた。

「では、本当の名を思いだすまではレインと名乗るといいだろう。それで、これからのことなのだが…」

「陛下、彼の魔力値が出ました。２５００万です。」

「なっ」驚き声にならない一同。

「ウィン国随一の魔力を持つサクラ様、リッカ様でも１２００万程度です。召喚獣無しで倍以上の魔力を持っています。信じられません。」

呆然とする一同の中ウルスが発言した。

「陛下、彼をルーナ様のガーディアンにしてみては如何でしょう？彼は私達夫婦が引き取って育てますゆえ。」

「なっ、何を言い出すんですか父上は！ルーナ様のガーディアンは私の息子のククリだったはずです。」

驚き、怒りを表すカタール。

「だが最近ルーナ様のガーディアンに選ばれて天狗になり、怠けているところがあるがあるだろう。だから儂等が育て、ククリと競

わせればよい。レインもそれでよいかの？」
「僕はカナリアとルーナに助けて貰いましたから、恩返しがしたいです。」
「では、決まりじゃの。皆もそれでよいかの？」
レインはウルス夫妻の養子となり、ルーナのガーディアンとなる為の訓練をする事になった。

ーコーラル城・客室ー
カナリアとルーナに言われ、今夜はコーラル城に泊まることになったレイン。レインが横になっていると、カナリア、ルーナ、ユリの3人が部屋に入ってきた。
「ユリ＝エルフィンです。よろしくね～」
そう言うと突然レインに抱きつくユリ。レインが困惑していると、
「あ～、ユリに気に入られちゃったのね。ユリは気に入った物に抱きつく癖があるのよ」
呆れ顔で説明するカナリア。
「ちなみにユリさんは魔法が得意で姉さんのガーディアンでもあるんです。」
「そうなの。これからガーディアン同士仲良くしようね～。」
4人で他愛ない話しをしながらこの日の夜は更けていった。

ースレイブ宅・離れー
「今日からレインには儂等と此処に住んで貰う。剣技は儂が魔法や一般常識等はサクラが教えることになる。始めに言っておくが儂等は厳しいぞ。」
「はい。これからよろしくお願いします。」
こうしてレインの日々は始まった。

プロローグ2（後書き）

プロローグはこれで終了です。次から本編を進めていきます。

入学試験

ーアルカナ学園ー

アルカナ学園はウィン国最高峰の魔法学園である。広大な敷地面積を持ち、高い魔力を持つ者しか入れない。だがアルカナ学園の尤も特殊なところは召喚獣を国で唯一授けられるところにある。

本来生まれ持った魔力は増えることはない。だか召喚獣を得ることで魔力は増え、そして生涯のパートナーとなる。

そのためには召喚獣に自分を主と認めさせる必要があるため、入学の最終試験として適正試験で召喚獣を従えることが入学の証となる。

その試験会場には入学を目指す者が２００人以上おり、その中にはレインとルーナ、そしてククリがいた。

会場の壇上には１０人中９人は振り向くような若い女性が立っていた。

「それでは入学最終試験を開始する。私はアルカナ学園、学園長アビス＝アルカナだ。１人づつ召喚石に触れ召喚の間において召喚獣と契約せよ。契約を以てアルカナ学園入学とする。」

入学試験（後書き）

次回レイン、ルーナ、ククリが召喚獣と契約します。

入学試験2

１０人づつ召喚石のある部屋に入っていく。
レインとルーナは学園長に連れられ、部屋に入った。
「試験について詳しく説明する。１人づつ召喚石に魔力を流してもらい召喚の間において召喚獣と契約をすれば合格だ。召喚の間は時間軸が違うため、どれだけいてもこちらの時間で１分で出てくることになる。契約を得た者はこの場に残り、得られなかった者はお帰り願おう。では名を呼ばれたら魔力を流せ。」
説明が終わるとククリがルーナに声を掛けてきた。
「ルーナ様お久しぶりでございます。このククリ＝スレイブ必ずや召喚獣と契約し、ルーナ様のガーディアンとしての使命を果たしてみせます。あのような偽物などにガーディアンが務まるはずがありません。」
「え、えぇ…」ルーナが困惑気味に答えるとククリの名前が呼ばれた。
「相変わらずですねククリは」
「えぇ、あれがなければいい人なんだけどね。」
レインとルーナが苦笑いを浮かべながら話しているとククリが契約の証として腰に赤い剣を携えながら戻ってきた。
「ルーナ様、ククリ＝スレイブ契約完了し戻って参りました。」
「おめでとう」レインがそう言う、とククリは勝ち誇るようにして
「ふん、当たり前だ！貴様とは格が違うからな。俺が契約したのは中級でも上位の炎虎だ魔力を５０万しか持たない貴様では下級召喚獣が精々だろう。」と言い放った。
ルーナが訝しんでいるとルーナの名前が呼ばれた。
「それでは行ってきますね。」
「ルーナ様頑張って下さい。ルーナ様なら必ずや召喚獣と契約出来ます。」

「うん。いってらっしゃい。」
レインにだけ頷くとルーナは召喚石に魔力を流した。

入学試験２（後書き）

召喚獣の契約方法とククリの初絡みで終わってしまいました。次の話でレインとルーナが契約します。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1954y/

召喚師

2011年11月8日21時07分発行